

これが映画だ。

最低体感温度

氷点下40度。

標高3000メートル。

200日超のやまごもり。

これは、

伝説の活動屋と、

その仲間たちの、

「前人未踏」の

ドキュメントである。



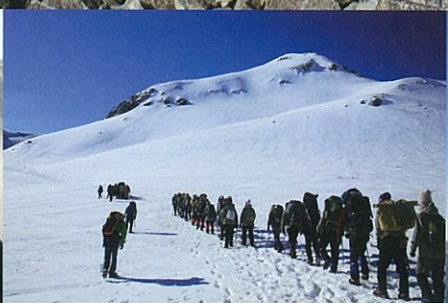
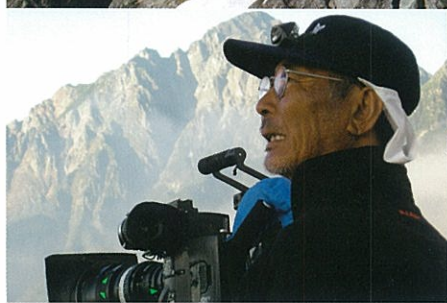
# 剣岳

撮影の記

標高3000メートル、  
激闘の873日

木村大作  
浅野忠信  
香川照之  
松田龍平  
仲村トオル

東映  
住友商事  
朝日新聞社  
北日本新聞社  
東映ビデオ  
朝日テレビ  
窪田等  
がみむら周平  
新田次郎  
大澤嘉工



11月14日(土) 特別公開

[www.tsurugidake.jp](http://www.tsurugidake.jp)

「撮影」ではない。  
「行」に出るのだ。

全ては、  
本物の映画  
のために。  
全ては、  
本物の映画作り  
のために。



木村大作と出会い、密着を始めた。  
発する熱に引き付けられる様に。  
やがて「劔岳点の記」という  
映画の撮影が始まった。  
そこには熱が沸点を  
越えていく世界があった。

監督 大澤嘉工

**観** 客動員220万人、興行収入25億円を記録した、  
2009年夏の大ヒット映画「劔岳点の記」。  
100年前、日本地図完成に人生を賭けた測量隊の真  
実を描くために、徹底したリアリズムにこだわり、  
文字通り「前人未踏の撮影」を経て完成された映画  
の全記録、この映画作りに賭けたスタッフ・キャスト  
の燃えるような思いが、ここに明らかになる!

撮影の大半は、「日本の尾根」・標高3000メートルに  
達する北アルプス・立山連峰各所で、2007年春から  
2008年秋まで足掛け2年、延べ200日超を掛けて行われた。  
高山病の症状に悩まされながら、登山経験の全くない、  
全てのスタッフ・キャストが3~40キロの機材・荷を背負い、  
平均5~6時間、最長9時間の徒步行軍で、撮影現場と  
寝起きする山小屋を往復する毎日。時に、山小屋が  
満杯ならテントで暮らす。時に、吹雪に行く手を遮られる。  
時に、強烈な風雨に何日も山小屋に閉じ込められる。  
フィルムに焼き付けられた2時間19分の為に捧げられた  
膨大な時間、労力、そして計り知れない忍耐。  
新田次郎の書き記した柴崎芳太郎率いる測量隊と対する

日本山岳会の足跡を、できる限り正確に辿ることにこだわったのは、映画「劔岳点の記」(12月11日DVDセル発売・レンタル開始)の企画から宣伝まで陣頭指揮した監督・木村大作。撮影助手として「隠し砦の三悪人」「用心棒」など黒澤明監督の現場で「本物の映画作り」を叩き込まれ、「八甲田山」「復活の日」「華の乱」「鉄道員」など幾多の名作・傑作で撮影を担当した、日本屈指の名カメラマンが、半世紀を超える活動屋人生の全てを賭けて取り組む全行程、肉声を隈なく収録。木村自ら選んだスタッフ・キャストと共に、妥協を一切排して挑む姿は、驚きを超越した感動をもたらす。「一人の人間として凄い人生体験だった」浅野忠信、香川照之、松田龍平、仲村トオルら日本のみならず世界で活躍する、経験豊かなキャストたちに、口々につぶやかせた体験とは何だったのか。「なぜ、これほど過酷な撮影を敢行し、耐えられたのか」「劔岳 撮影の記 一標高3000メートル 激闘の873日」は、その答えを含む、人生の真実を捉えた迫真のドキュメントである。



**11月14日(土) 限定特別公開**

※上映時間、上映期間は各劇場までお問い合わせ下さい。

新宿バルト9  
03(5369)4955

梅田ブルク7  
06(4795)7602

TOHOシネマズファホーレ富山  
076(466)1700